

吉岐の農業



管内農業の概要

主要品目の生産振興

多様な担い手の育成

吉岐産地マップ

平成30年8月版



吉岐振興局農林水産部 農業振興普及課

管内農業の概要

壱岐市は玄界灘に浮かぶ総面積138km²、総人口26,954人(H30.5月末現在)の平坦な島で、平成16年3月1日に郷ノ浦町・勝本町・芦辺町・石田町の合併により市制が施行されています。

気候は対馬暖流の影響を受けて、年平均気温16.1、降水量1,629mmの温暖な海洋性気候です。

肉用牛、水稻、葉たばこが主幹作目で、いちご、アスパラガス、メロン等の施設園芸や小菊などの花き類が導入され、産地が形成されています。

島しょながら県内では2番目に広い深江田原平野があり、水田の基盤整備率は66%と高く、県内有数の穀倉地帯です。

また受益面積319haの大区画圃場整備事業が行われ、幡鉾川流域を中心に44の集落営農組織活動が展開されています。



耕地面積・農家戸数・農業従事者

区分 壱岐市	土地面積 (km ²)	耕地面積 (ha)	総農家数 (戸)	販売農家戸数(戸)				農業就業 人口 (人)
				専業	1種兼業	2種兼業	計	
2010	138.55	3,900	2,728	518	240	1,052	1,810	2,585
2015	139.42	3,590	2,280	433	213	854	1,500	1,994

出典：農林業センサス

耕作の状況

区分 壱岐市	田面積 (ha)		畑面積 (ha)		計 (ha)	1戸当たり 耕地面積 (ha)
		基盤整備率 (%)		基盤整備率 (%)		
2010	2,440	60.6	1,460	2.7	3,900	1.43
2015	2,290	64.7	1,300	3.0	3,590	1.57

出典：作物統計調査、農村整備課調査

作物別作付状況

区分 壱岐市	作物別作付状況(ha)									飼養頭数 (頭)
	水稻	麦類	大豆	葉 たばこ	飼料 作物	柑橘・ びわ	メロン	いちご	アスパ ラガス	肉用牛 (繁殖雌牛)
2010	1,300	95	66	100	1,851	8.1	9.0	7.0	10.0	12,457 (6,942)
2015	1,110	152	75	73	1,696	5.2	5.2	5.1	14.8	10,074 (5,807)

資料：水稻・麦類・大豆は、平成27年産作物統計調査
 葉たばこは、西九州たばこ耕作組合調べ
 飼料作物及び飼養頭数は、長崎県畜産課調べ
 柑橘・びわ・メロン・いちご・アスパラガスは、壱岐市農協調べ

主要品目の生産振興

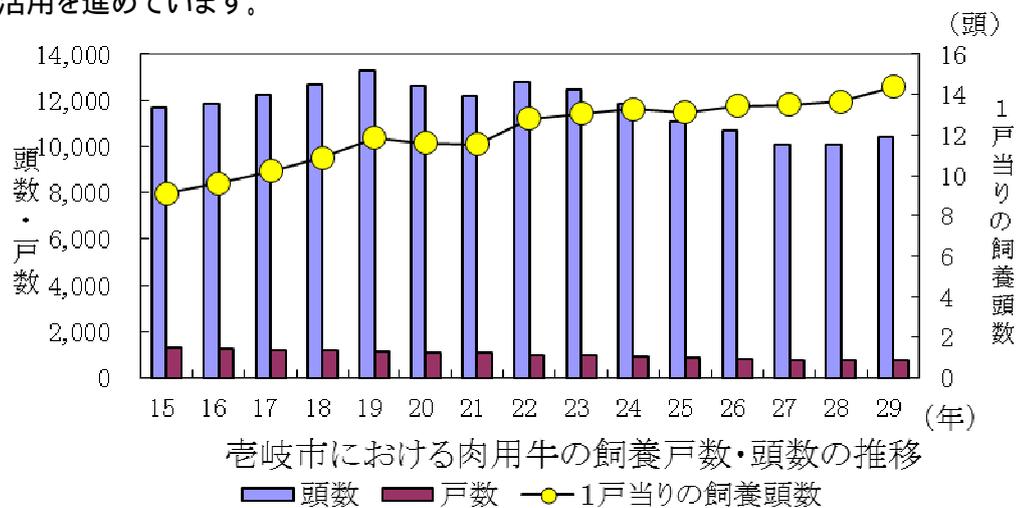
畜産（肉用牛）

肉用牛は、繁殖経営が中心で飼育頭数は平成29年3月末時点で7,221頭（うち繁殖牛5,867頭、肥育牛1,354頭）、平成29年度の農協販売額は約66.9億円（うち子牛35.5億円、成牛4.0億円、肥育牛10.9億円）と農業産出額全体の過半を占める吉岐農業の基幹作目です。

近年、肥育農家の経営規模拡大が進み、繁殖、肥育の地域内一貫体制と「吉岐牛」ブランドの確立を積極的に推進し、平成26年4月25日に「吉岐牛」は地域団体商標登録されました。

しかし、高齢化、担い手不足による飼養戸数の減少に伴い、繁殖牛頭数は減少が続いていましたが、ここ数年は横ばいとなっています。今後、増頭に向けて、補助事業等を活用した増頭の推進、ヘルパー組織やコントラクターといった労力支援システムの構築、そして子牛共同育成施設（キャトルステーション）や繁殖牛受託施設（CBS：キャトルブリーディングステーション）等の管理作業軽減のための外部委託施設を整備するなど、子牛生産地としての生産基盤の強化を図っています。

また、島内で発生している焼酎粕を飼料に活用するエコフィードを推進し、生産コスト低減と地域資源の有効活用を進めています。



定休型ヘルパー組合



WCSの収穫



定期子牛せり市



CBS(キャトルブリーディングステーション)

農産（水稲・麦・大豆）

水稲

水稲は、吉岐の基幹作物の一つで、平成29年産の栽培面積は1,016.9ha、JA吉岐市の平成29年度販売額は7億3千万円となっており、県内有数の米産地です。

品種は、高温耐性である「つや姫」、「にこまる」及び「なつほのか」の導入が進んでいます。

早期水稲の「つや姫」は、特別栽培農産物として、平成24年度から本格的に開始し、平成29年度は167.2haが栽培されています。

普通期水稲の「にこまる」は、平成21年度から栽培を開始し、平成29年度338.7haまで栽培面積が拡大しました。

平成30年度から普通期水稲の「なつほのか」の栽培が開始されます。



「つや姫」の生育状況

麦

麦は、水田裏作を中心として、吉岐焼酎原料用大麦が生産されており、管内の実需者との交流を図りながら、ニーズに応じた生産量・品種の確保に取り組んでいます。

栽培面積は増加傾向で平成30年産は166haとなっています。

平成30年産から従来の品種よりも収量・品質が期待される「はるか二条」に全面転換しています。



大麦の収穫作業



大豆の摘心作業

大豆

大豆は、21世紀型圃場整備地区を中心に平成29年産の栽培面積は70haとなっています。

「吉州豆腐」や納豆など地域の加工品にも利用され、地産地消の推進にもつながっています。

安定生産を目的として摘心技術等の新技术を導入しており、生産量の増加を目指しています。

野菜

いちご

昭和62年から栽培が始まり、平成29年度の部会員は38名、栽培面積は4.1ha、販売額(平成28年)は約1億5千万円となっています。

品種は、「さちのか」から「ゆめのか」への転換を進めています。また、労働負担軽減のため、全体の33%にあたる約1.6haでベンチ栽培が導入されています。



「ゆめのか」の出荷状況



アスパラガス圃場と出荷調整作業

アスパラガス

恵まれた自然条件のなか、部会組織では全国初のエコファーマー認定を受け、環境にやさしいアスパラガスづくりを行っています。

年々面積が増え、平成29年度の部会員は83名、収穫面積は14.4ha、販売額(平成29年)は約3億7千万円となっています。

また、単収は11年連続の県内トップでJA壱岐市アスパラガス部会は、平成23年度に第41回日本農業賞大賞を受賞しました。

農協集荷場に自動選別切揃機を導入し、選果作業の省力化を図り、面積20ha以上、販売額6億円以上を目標として産地規模の拡大を目指しています。

メロン

糖度が上がりやすい土壌条件を活かし、昭和60年からアムスメロン、昭和62年からアールスメロンの栽培が行われています。

平成29年度の部会員は38名、栽培面積は4.1ha、販売額は約5,300万円となっています。

全体の約9割以上が宅配便などの贈答用に向けられており、特にアムスメロンは壱岐の初夏を代表する特産品となっています。



アムスメロン圃場



ミニトマト圃場とパック詰め商品

ミニトマト

平成23年からアムスメロンの後作ハウスや遊休ハウスを活用した抑制栽培が始まっています。

平成29年度の部会員は23名、栽培面積は1.2ha、販売額(平成29年度)は約2,674万円となっています。

全量農協共選のため、生産者の調整出荷作業が大幅に軽減されており、壱岐における振興品目の一つとして、産地規模拡大を図っています。

ブロッコリー

平成13年度に1.3haで始まり、平成29年度の部会員は37名、栽培面積は18ha、販売額は約2,000万円です。

平成22年度から氷詰め出荷、平成27年度から全量共同選果を開始する一方、契約的取引の拡大に取り組み、単価は以前より安定してきました。

水田裏作での栽培では、排水対策の徹底による単収向上と経営リスク回避のための複数作型の導入を図っています。



鮮度保持のため、氷詰めで出荷

花 き

小菊

平成4年から栽培が始まり、平成29年度の部会員は52名、栽培面積は7.3ha、販売額(平成29年)は約5,300万円です。露地で栽培できる品目として作付けを推進しています(出荷期間:5月~2月)。

最需要期である、盆、秋の彼岸の出荷については、電照抑制栽培の導入を進めており需要期の安定出荷に努めています。品種が多いため、部会で奨励品種を定め10ha、1億円を目指しています。

また、部会のオリジナル品種の育成についても積極的に進めており、「いきな小菊」のブランド確立、産地の維持発展に向け取り組んでいます。



小菊の現地検討会



小菊の電照栽培圃場

草花

施設草花のアスター、ひまわり、冬場のストックが主要品目で、部会員は11名、栽培面積は1.5haです。

情報収集を行いながら、ストック、ひまわり等の新品種の試作導入などを積極的に取り組んでいます。



ストックの現地検討会

果 樹

昭和50年代の温州みかんの価格低迷をきっかけに、ゆず栽培が盛んに行われるようになり、現在約5haのゆずが栽培されています。地元の特産品である「ゆずこしょう」、「ゆずポン酢」、「ゆべし」などの原料として活用されています。「吉岐をゆずの島に」を合言葉に、ゆず栽培を推進しています。

また、消費が低調な伊予柑に代わる品種として、「麗紅」「津之輝」「せとか」などの中晩柑も生産されています。



産地化を進めている「ゆず」



新たな導入品種「津之輝」

葉たばこ

葉たばこは、肉用牛、水稲に次ぐ主幹作目です。
平成29年度の栽培者数は29戸、栽培面積は66ha、
販売額は約3億3千万円となっています。
AP-1など省力型作業機械の導入や受委託共同
乾燥施設への乾化作業を委託することなどにより経
営規模の拡大を図っています。



AP-1による葉たばこの収穫



大型基盤整備地区

食品流通・加工

管内には「農産物直売所」(有人)が6か所あり、島
内で生産された新鮮な農産物等の直売活動や消費
者との交流活動が積極的に行われ、地域における地
産地消の拠点となっています。

JA壱岐市では、福岡県内の量販店に産直コー
ナーを設置し、販路拡大を図っています。

また、11か所の農産加工所では、「いき壱岐納豆」
や「ゆずの香」、「ゆずごしょう」等のゆずの加工品が
商品化され、島内外で販売が拡大しています。壱岐
ゆず生産組合は、平成26年6月に法人化し、新商品
開発に向け、取り組みが活発になる等、6次産業化
の取り組みが広がってきています。



「アグリプラザ四季菜館」(JA壱岐市)



ゆず加工品



いき壱岐納豆

多様な担い手の育成

新規就農者

関係機関との連携のもと、就農支援センターを設置し、就農希望者や新規就農者の相談対応やフォローアップ、支援方策の打ち合わせ等を行なっています。

新規就農者に対しては、フォローアップ活動により、技術支援、経営指導、新規就農者研修会等を実施し、知識や経営力の向上を図り、農業者として経営が安定するよう支援しています。

また、JA吉岐市では研修事業を実施し次世代を担う就農者の育成確保に努めています。

平成29年度は、13人が新規就農しました。



新規就農者研修会

青年農業者

吉岐地域青年農業者連絡協議会

吉岐地域青年農業者連絡協議会は、31人の農業後継者で構成されています。

実績発表大会や青年交流会、研修会その他、共同プロジェクト活動などを通じて、地域農業の課題解決、経営向上に向けて取り組んでいます。



活動の様子(左:加工品開発検討、右:活動実績発表)

IFFの会(IKI Frontier Farmers)

平成12年度に吉岐市の専業青年農業者(8人)が、会員の経営向上と情報交換活動のため、IFFの会を結成しました。(平成29年度会員数10名)

会員相互の経営訪問、先進地研修、個人プロジェクト等による会員の経営手腕の向上への取組のほか、保育園児を対象とした農業体験交流会(芋挿し、芋掘り体験等)等による農業のPR活動も行っています。



総会・実績発表会

吉岐牛研究会(会員数16人)

平成22年度に吉岐市の肉用牛後継者が、経営の改善や飼養管理技術の向上を目的として吉岐牛研究会を結成しました。

子牛せり市後の勉強会や先進地視察研修、会員牛舎の相互巡回などを実施し、地域の担い手として肉用牛振興に努めています。

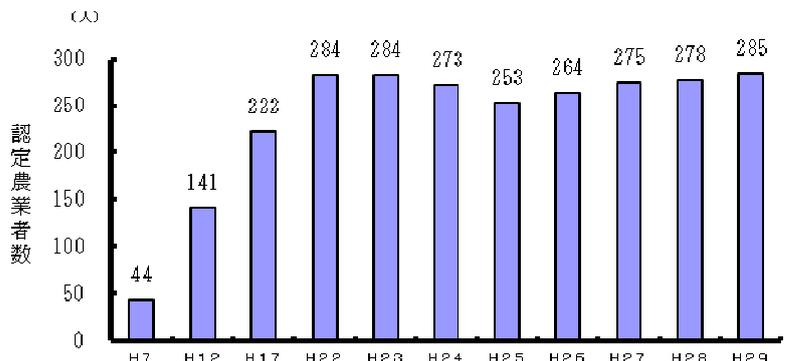


子牛せり市後の勉強会

認定農業者の育成確保

吉岐市の認定農業者は平成30年3月末で285経営体となっています。

吉岐市では、認定農業者で構成する吉岐市認定農業者協議会を組織し、認定農業者自らの経営改善と会員相互のネットワークづくりのため、研修会や先進地視察など研鑽活動に取り組んでいます。



認定農業者数の推移（年度末）

集落営農組織の育成

平成29年4月に、JA、市、県が一体となって、集落営農組織や担い手を支援する、「吉岐市担い手サポートセンター」を設置し、毎週火曜日を相談日に設定し、あらゆる相談にワンストップで対応・支援する体制を構築しました。

特定農業団体である集落営農組織の法人化支援や、法人化後の経営発展に係る各種研修会の企画運営等を行なっています。

平成29年3月現在、集落営農組織44のうち28組織が法人設立されており、関係機関と連携し法人化に向けた取り組みを進めています。



吉岐市担い手サポートセンター開所式



集落リーダー育成塾の開催



法人経営の多角化に向けた施設園芸団地への視察研修



法人化に向けた集落内での合意形成支援

吉岐産地

マップ

★: 畜産関連施設

○: 直売所等施設



吉岐振興局 農林水産部 農業振興普及課

所在地 〒811 - 5732

長崎県吉岐市芦辺町国分東触678 - 7

TEL 0920 - 45 - 3038 FAX:0920 - 45 - 3045

0920 - 45 - 3030